

< デイリー・コメント (6/13) >

## 円安のMナンバー

(株) マネー & マネー 社長・吉田 恒

ユーロ円が続落している。今週末終値が 162.80 円を下回ると、2 週連続のユーロ陰線引けとなり、なんとそれは昨年 5 月初め以来、1 年 1 ヶ月ぶりのことになる。ユーロ高・円安基調、ひいては円安傾向自体の転換が始まっている可能性を考える上での注目価格、マジックナンバーになりそうだ。

### 継続か、転換か

今年に入ってからドル円の値幅は一段と縮小。これに対し、ユーロ円は 5 月こそ小動きだったが、4 月まではむしろ例年以上の値幅拡大が続いていた。これを見るかぎり、今年の相場はユーロ円を含めたクロス円主導といわざるをえない。

ところでそのユーロ円は、以前も書いたが、昨年 5 月以降、陰線が 2 週以上連続したことが基本的になかった。昨年 4 月から 5 月にかけて、G7 をきっかけにドル円とともにクロス円も急落した局面があったが、それを最後にユーロ円は 140 円から上昇基調が展開、その中では週足ユーロ陰線が 2 週以上続いたことが基本的になかったのである。

今年 2 月末から 3 月にかけてユーロ円は一時 150 円まで急落した。しかしこの局面も週足ユーロ陰線は 2 週すら続かなかった。そしてこのような強いクロス円の上昇基調の中で、全体的な円安基調は崩れず今に至っているわけだ。

さてそんなユーロ円の先週末終値は 162.80 円。今週末これを下回ると、1 年 1 ヶ月ぶりの 2 週連続陰線となる。140 円から続いてきたユーロ円の上昇基調、ひいてはクロス円の上昇基調、さらに円安基調全体のリズムが変調している可能性を占う上で注目したい価格だろう。

もしも円安基調に変化がなければ、週末にかけてユーロ円は 162.80 円以上に戻すことになる。しかし戻しきらず、162.80 円を下回って終わるようなら、円安基調の変化が始まっている可能性がいよいよ注目されるのではないか。(Y)